

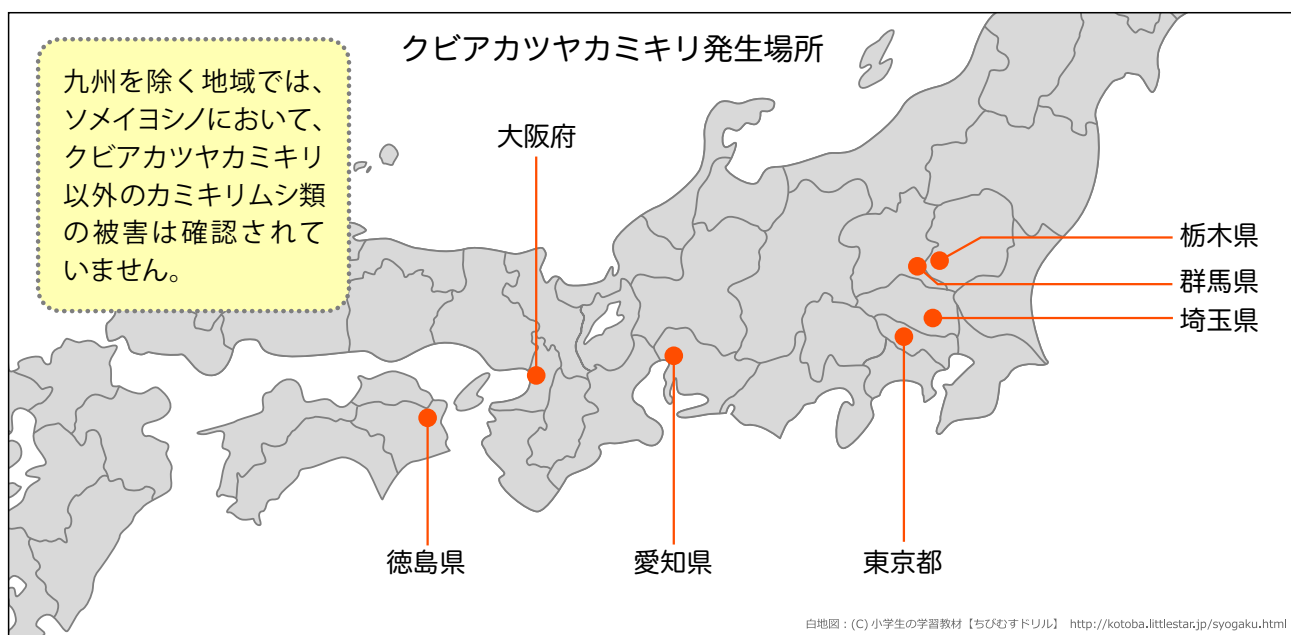
クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ)について

サクラ類等の侵入害虫(外来生物)・クビアカツヤカミキリ(別名クロジャコウカミキリ)の拡散防止が課題となっています。幼虫がサクラの内部に侵入して材を摂食加害し、サクラを衰弱・枯死させ、各地の桜がなくなってしまうのではといった危機感さえもたれています。クビアカツヤカミキリが拡散しないよう適切な徹底した防除が必要です。すでに発生した都府県や市、その周辺自治体、研究機関などでは、クビアカツヤカミキリを発見した場合の連絡先や、防除方法の周知などが行われています。

環境省(自然環境局野生生物課外来生物対策室)では、クビアカツヤカミキリ(*Aromia bungii*)を「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年法律第78号。一般に「外来生物法」)第2条第1項による特定外来生物として7月に追加指定する方針で、すでにパブリックコメントを終えています。特定外来生物に指定すべきとされた理由は次の通りです。

- ・日本国内では一部地域で定着しており、サクラ等への加害による枯損が確認されている。
 - ・森林に侵入定着した場合、植生への食害や在来カミキリムシとの競合により森林生態系に被害を及ぼすおそれがある。
 - ・桜並木への加害による景観への悪影響や、被害木の枯損や落枝等による二次的な人的被害も懸念される。
- “サクラ等への加害による枯損”、“桜並木への加害による景観への悪影響や、被害木の枯損や落枝等による二次的な人的被害”とあるように、サクラ等への被害は広がりを見せています。

2012年…愛知県(サクラ、ウメ)。2013年…埼玉県(サクラ)。2015年…群馬県(サクラ)、東京都(サクラ)、大阪府(サクラ、ウメ)、徳島県(サクラ、モモ、ウメ、スモモ)。2016年…栃木県(クヌギ)。



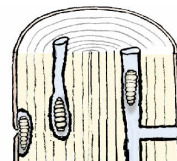
クビアカツヤカミキリの侵入経路は不明ですが、イギリス、アメリカ、ドイツでは木製梱包材やコンテナの中で発見されており、貿易流通の増加に伴って侵入し分布拡大したとも考えられます。

〔被害の特徴〕

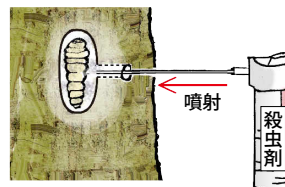
- ・幼虫が樹木内部に食入した場合、樹木の周囲には**著しい量のフラス**が排出されている。
- ・卵は樹皮の割れ目に産み付けられる。孵化した幼虫が樹皮に**孔をあけて樹木内部に食入し辺材、心材を食害**することで、樹木は衰退し枯損することもある。

〔防除方法〕

- ・**4月頃から夏の間**、根元・幹・枝などに**フラスが発生している場合は、幼虫が樹木の内部に食入**していると考えられる。

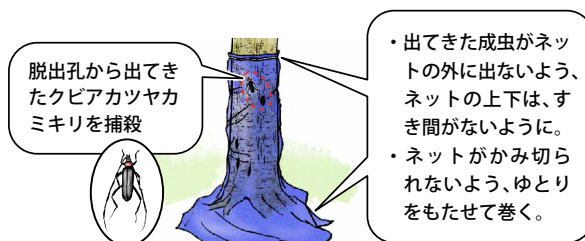


- ・幼虫の食入孔があった場合は、**孔に殺虫剤を噴射注入する。その後は見回りをして、数回注入する（薬剤の使用回数厳守）。**



- ・フラスが発生していた樹木を中心に、**成虫の発生時期（6～8月）**、成虫の有無を調査する。成虫を見つけた場合は**捕殺**する。

- ・**6～8月**に、成虫の分散防止、産卵防止のため**ネットなど（目開き4mm以下の防鳥ネットなど）を樹木の幹に巻き付け、定期的に見回り、成虫を捕殺する。成虫が脱出しないよう処置**をする。



- ・幼虫の食入孔、成虫の脱出孔が複数確認された樹木は**伐倒処理**をすることが望ましい。伐採した樹木は**焼却処分**とするが、処分場への運搬途中で紛失しないよう注意する。



- ・伐採後の切り株に**孔が開いている場合は内部に幼虫が残っている可能性がある**ので**孔に殺虫剤を噴射**し、ネットやビニールシートなどで覆い、**成虫が脱出しないように**にする。また、樹木用のボンド等を何度も塗り膜をつくるという事例もある。



- ・登録農薬(成虫に対する)

樹木類のカミキリムシ類:MEP乳剤

果樹類のカミキリムシ類:昆虫寄生性糸状菌製剤

幼虫に対する薬剤防除

クビアカツヤカミキリの拡散を防ぐには樹木内部にとどまっている幼虫を防除することが効率的です。産卵数が非常に多いため、成虫となって飛翔拡散する前に、幼虫の段階での防除が必要です。

●カミキリムシ類の幼虫に対して殺虫効果が見込まれる薬剤を用いて試験を行った結果が報告されています(安岡拓郎「植物防疫所調査研究報告」第53号、51-62、2017年3月)。ソメイヨシノの幹でフラスが排出されていた孔に薬剤(アセタミプリド、フェンプロパトリン、メタフルミゾンの3種類)を注入した試験において、約7割の防除効果(フラス排出孔数が減少。すなわち孔内の幼虫が死んだと判断)が得られています。

※アセタミプリド(マツグリーン液剤2)、フェンプロパトリンエアゾル剤(ロビンフッド)、メタフルミゾン水和剤(アクセルフロアブル)

●果樹(モモ、ウメ、スモモ)でクビアカツヤカミキリ成虫が捕獲された徳島県では、被害が拡大しないよう防除方法の研究に熱心に取り組んでおり、農薬登録拡大試験を行い、その成果をもとに去る4月26日付けでモモ、ウメ等果樹類のカミキリムシ類に対する殺虫剤(フェンプロパトリンを含む農薬を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する)が適用拡大されました。

※徳島県では県農林水産総合技術支援センターにクビアカツヤカミキリ撲滅チームをつくり、サクラや果樹等をクビアカツヤカミキリから守るための防除方法・対策を確立して全国に普及するべく、調査研究の充実に向けてアクションを起こしています。

●さらに、5月17日にはサクラについて、クビアカツヤカミキリに対する殺虫剤として適用拡大されました。

農薬の種類:フェンプロパトリンエアゾル／ 農薬の名称:ベニカカミキリムシエアゾール・ロビンフッド／
登録番号:第23779号・第23780号／ 登録者:住友化学園芸(株)・住友化学(株)／ 使用方法:樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射／ 使用回数:6回以内

クビアカツヤカミキリ

〔自然分布〕

中国、モンゴル、ロシア、朝鮮半島、台湾、ベトナムなど。

〔宿主〕

サクラ類、ウメ、モモ、セイヨウスモモ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、ヤナギ類、ザクロ、コナラ、クワなど。

〔形態〕

体長2～4cm程度。メスはオスより大きい。触角は黒色でオスは触角が体長より長くメスは体長とほぼ同じ。体全体が光沢のある黒色で、前胸背板は明赤色で側面にとげ状の瘤が一对ある。

〔生態〕

- ・卵の数が他のカミキリムシ類より多く、数が増える(1匹の産卵数は100～300ともいわれ、転々と産み付ける。1,000個産卵するものもある)。
- ・6～8月、幹や太枝の樹皮の割れ目に産み付けられた卵は、8～9日後に孵化し幼虫は樹木内に穿孔する。
- ・幼虫は2、3年(あるいは3、4年)樹木内にとどまるものもあるといわれる。
- ・越年した幼虫は春頃(4月頃)から活発に摂食するのでフラスが目立つようになる。摂食は5～6月ピーク。6月下旬蛹化、8月にかけて成虫となる。



クビアカツヤカミキリの幼虫と摂食による孔道(加納正行氏、一部トリミング)



クビアカツヤカミキリの成虫 左:オス 右:メス (西山正大氏撮影、加納正行氏所蔵、一部トリミング)



根元にたまったフラス(加納正行氏)



幹にたまったフラス(和田博幸氏)



根元にたまったフラス(西山正大氏)

写真：和田博幸氏(公益財団法人 日本花の会)にご了承いただき、会員ニュースNo.3より転載しました。

クビアカツヤカミキリとコスカシバのフラスの違い 巻末資料「コスカシバ?クビアカツヤカミキリ?」参照

クビアカツヤカミキリ	・棒状に連なり細かい ・淡黄色～暗褐色 ※フラスは大量に排出され、近くに楕円の成虫脱出孔が見られる ※幼虫初期のフラスは、モヤモヤと細かくコスカシバのフラスに似ているが、次第にその長さや量が多いことから見分けがつくようになる ※樹木自体が弱っているとフラスは粒状になることもある
コスカシバ	・顆粒状、球状 ・通常は暗褐色 ※フラスの量は少ない

外来生物法と特定外来生物

「**外来生物法**」は、特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的としています。

特定外来生物は、外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。輸入、飼養(飼育・栽培・保管)や運搬、野外に放つことは原則禁止です。

ただし、学術研究等の一定の目的の場合に限り、許可を受けて輸入や飼養等をすることができます。また、捕獲した個体をその場で直ちに放すこと(いわゆるキャッチ・アンド・リリース)は禁止されていません。

※クビアカツヤカミキリを防除するためには、捕殺することが必要です。

特定外来生物に指定された種のうち、すでに日本国内に侵入し、被害を発生させているもしくはそのおそれがあり、被害防止のために必要な場合には、国、地方公共団体、民間団体等は防除をすることができます。

※各自治体では、クビアカツヤカミキリを個人が見つけたら、直ちに連絡するよう呼びかけています。

巻末資料の「**Wantedご用心**」参照

「外来生物法」に違反すると、その内容によって罰則(懲役または罰金)が課せられます。

巻末資料の「**Wantedご用心**」と「**コスカシバ?クビアカツヤカミキリ?**」は、加賀谷悦子氏(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林昆虫研究領域 チーム長(穿孔性昆虫担当))からご提供いただきました。

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒805-0033 福岡県北九州市八幡東区
山路松尾町14番2号 一般社団法人 北九州緑化協会会館内
TEL・FAX:093-651-5512

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市四維路176巷2號1樓
TEL:+886 02-2325-6911

WANTED !

外来カミキリムシにご用心！

サクラ・ウメ・モモピンチです

もともとは日本にいないクビアカツヤカミキリという
大きなカミキリムシが、国内で相次いで見つかっています。
この虫はサクラやウメ・モモなどの木の幹の内側を食い荒らして、
被害がひどくなると木は枯れてしまいます。
この虫を見つけたらすぐに「退治」が一番です。
下の写真のようなカミキリムシの成虫や、サクラなどの木からの
虫のくいかす(フラス)を見つけたら、地元の自治体および
下記連絡先にお知らせください。



フラス ひき肉状に連なって出てくることが多いですが、
春先や枯れた木からはパラパラとまとまらずに出てきます。



脱出孔 成虫は細長い穴
を幹にあけて出てきます。



幼虫が木の中に多いと、フラスが
地面を覆ってしまうこともあります。

成虫 5月の末から7月まで見られます。
6月に多く出てきます。
体の大きさは触角ぬきで3-4cm。

問い合わせ連絡先

国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所 森林昆虫研究領域

穿孔性昆虫担当チーム

電話 029-829-8251

電子メール sakurakamikiri@ml.affrc.go.jp

コスカシバ？ クビアカツヤカミキリ？



とにかく大量のフラス
+楕円の脱出孔
→クビアカツヤカミキリ



顆粒状で少量のフラス
→コスカシバ